

公益社団法人日本オリエンテーリング協会
アスリート委員会 強化委員会 意見交換会

2024年8月26日

・出席者（敬称略）：

アスリート委員会 寺垣内（委員長）、堀田、菅谷、尾崎、桑（進行・文責）、稲毛（事前コメント）

強化委員会 稲葉（委員長）、稲田、入江、尾上、藤井、石澤、寺嶋、西脇

・実施形態：オンライン形式（Zoom）

・アジェンダ

- 1 はじめに
- 2 選手選考の考え方について（選考会実施に関して）
- 3 日本ランキングの位置付けについて
- 4 強化方針・将来臨む姿やビジョンについて

1 はじめに

事前に収集したアスリート委員からのコメントを共有。

稲毛（アスリート委員、事前コメント）

強化委員会の皆様には本当に感謝しております。代表選手の選考や派遣だけでなく、普段から選手に声をかけてくださったり合宿の要望に応じてくださったりと、我々の競技力向上には欠かせない存在になっています。

尾崎（アスリート委員）

これまで、考えを強化委員会の方と共有する機会がなかったのがもったいなかったなと思っています。強化委員会の方の日本のオリエンテーリング界への尽力は、十分理解して感謝しています。今後は、このような機会を作って、より強い日本チームを作り上げていけることを願っています。

2 選手選考の考え方について（選考会実施に関して）

アスリート委員より事前に出た意見のポイント

- ・選考会実施の希望
- ・公平な代表選考
 - 勢いのある選手や年間通してコミットできない選手の救済
- ・選考会のビジョン（トレイン含めて）、フィンランドの選考例

寺垣内（アスリート委員会委員長）

個々人で考え方は違う。選手に寄り添って意見を聞いてもらっていて、感謝している。現在は、日本ランキング、世界ランキング、全日本等が過渡期であると認識している。フォレスト、スプ

リントが分かれたりして選考方針を作るにあたり、難しい点が多いことは理解している。

その上で、選手選考の入り口は多様であるべきと思っている。ランキングはある期間の平均的な数値であり、選考会は勢いのある選手を取れる。多様な間口があると良い。マラソンを参考にすると、事前に決まる選手と直前に決まる選手がいる。

尾崎（アスリート委員）

選考の考え方として、色々な間口を用意して選考してほしいと考えている。

一方で、他国でも選考会を実施している。アスリートとしてはWOCのタイミング、選考会のタイミング等長いスパンで準備をしていくことが普通になる。選考会の時期は重要。怪我・家庭の事情で活動が難しかった選手も救えると良いと思っている。

フォレストの選考会は毎年富士で実施している。WOCやJWOCのトレイン特性が異なる中で毎年同じトレインであることに疑問視している。選考会の開催地は、WOCでどのような選手を派遣しどのような結果を求めているか、ということの起点を考える必要があるのではないかと。

小牧選手から、フィンランド選手権のコースはナショナルチームでコースコントロールがされていると聞いた。トリッキーなレグは置かずフラットに選考できるようになっている。選考会の開催地だけでなく、コースも含めて戦略的な設計が必要なのではないかと。

稲葉（強化委員委員長）

選考会は開催すべきだが、簡単に開けるわけではない。静岡県協会の協力があり、公平なレースが開きやすい。本番が大陸トレインだから地形の多いトレイン、としたいと思うが、実情としては、開催地を変更して簡単に開けるわけではないという状況。何よりも公平性が重要だと思っているので、そういう面で難しい部分がある。特に、大学やクラブが作ったトレインだと、公平性が担保できない。

スプリントの選考会については、トリッキーなコースは組まないようにしている。

選考の多様性（間口を広げること）に関して、フォレストロングの選手は特に準備に長い期間を必要すると思っている。2025年に対しては全日本ロングの優勝者を選考するとしている。

尾上（強化委員）

公平さは大事であることは大前提である。多様性を確保しようとすると、妥当性の問題がある。

どういう選手を選びたいか？→今後の世界大会がどういうトレンドか（例：スプリントにスピードが必要等）、ということに関して、「こういうところが重要だと思って取り組んでいる」というところを選手・強化委員会双方で情報交換をしたいと思います。

スプリントは世界的にスピードだけでなく難易度も上がっているように見えるので、そういったトレンドで戦える選手を選ぶにはどうしたらいいかという現実の分析を選手側からも教えてもらえたらと思っている。

スピードが必要だとなったタイミングでは、スピードがないとだめなコースにしようと考えてやっている。まずは、根底にあるところを共有したいと思っている。

ランキングを使うことに関しては安易に使うわけではないが、選考会の運営リソースとのバランスになる。

→尾崎：世界で戦っていくにはこうすべき、というものを個々人持っている。もっとオープンに選ぶ側・選ばれる側で共有していくことは重要かと感じている。

寺嶋（強化委員）

フォレスト選考会については、コースの考え方、優勝設定時間などを静岡県協会とすりあわせて準備を進めるようにしている。そういうことをやっているの、その前にアスリート委員会との意見交換などを行えたら良いかと思う。

糸（アスリート委員）

アスリート委員会は選考会の実施を希望しているが、実際は WOC は毎年 4 月に選考会を実施してもらっている。ワールドカップは複数回あるため選考会を実施が難しいのは理解している。論点となっているのは AsOC に関することと思う。今回の AsOC は 4 月の選考会に重ねることは時期的に難しかったのか？

→寺嶋：募集要項の発表時期の関係から、派遣できる人数が分からず選考会を実施することは困難だった。

尾崎（アスリート委員）

AsOC については、選手選考の方向性だけでも示しておいてもらいたかった。強化委員会の目指す方向性とアスリート委員会の目指す方向性が一致していれば、今年の AsOC についてはうまくいったのではないかと感じている。

寺嶋（強化委員）

AsOC チャンピオンになれば WOC に出場できるので、強い選手が出場するべきと思っている。出場枠が 10 名あるので、勢いある選手、例えば U23 など若い選手などの成長を促す貴重な機会とするなども意見もある。そのあたり、どう考えるべきか、どうバランスとるのが意見交換するのが良い。

稲毛選手（アスリート委員、事前コメント）

選考会は可能な限り実施してほしい。

長期的に国際大会にターゲットを置き海外で結果を残せる選手に枠を作ることも必要だが、その時期に勢いのある選手へのチャンスも同様に必要だと思う。（日本代表を目指す裾野を広げる意味でも大事）

3 日本ランキングの位置づけについて

アスリート委員より事前に出た意見のポイント

- ・上位選手の順位を正確に判断する指標としては疑問
 - ・日本ランキングの使用は選考会の足きりや、大まかな目安として利用が良いのではないかと
- ※選考する場合は特定のレースのポイントに絞るなどが適切

尾崎（アスリート委員）

日本ランキングはオリエンテーリング界にとってプラスになっている。

ただ異常にポイントがはねる大会があること、全日本の順位が重視されている点は理解してもらいたい。選手が事前にポイントがはねる大会を予測することは難しく、全ての大会に出ることは難しい。

選手選考する場合、選考対象とする大会をいくつか絞ってポイントを使って、その中で決めるという手もあるのでは。

→稲葉：他の選手もはねているという認識があるのか？

→菅谷：点数がはねるという大会はあると思う。似たようなレースをしても、大会によって点数が違う。ボリューム層のタイム差がついているか、による。簡単なコースだとタイム差がつかないので点数は出ない。

スプリントだと、関西は簡単なコースが多いので、点数が出ず、難しいコースのある関東に行かないと点数が出ない。

→堀田：簡単なコースだと点数が出にくいという印象がある。

→寺垣内：自分はその点に関する意識は低い。AsOCの選考発表に対して、全日本等の加点が大きい大会の後に選考方法の発表があったことは問題視し意見書を提出した。

尾上（強化委員）

世界ランキング（WR）、日本ランキング（JR）との比較について選手はどう考えているか？

→尾崎：WRはJRと同じ特徴を持っている。出場選手のポイントの有無によってポイントの出方が変わってくる。出ている選手がポイントを持っていないとポイントが出ない。Wcupに出れる選手が上に来る。強化委員会がWRを重視するという方針なら選手はWR重視とする戦略を取るしかない。別々の大会のポイントと比較するのは難しいと感じる。

選手側としては、最終的に選ぶ側がどういったビジョンを持っているかが大事だと思う。安定した成績を持った選手なのか、一回の大会で良い成績を出す選手が良いのか、考え方を共有されていると良いと思う。強化方針に走力の強化というのがあったので、自分はAsOCに向けて走力の強化をしてきた。選考につながっていない部分があったのでは？

また、WR・JRの単純な比較は難しいと思う。別の基準で見るのが賢明なのではないか。

→稲葉：比較するというのではなく、強化委員会としては海外レースに出てほしいという思いがある。なので、海外レースに出た選手から選考したいという思いもある。

→入江：WRは期間が2年、レースを5本揃える必要がある。とはいえ、海外レースに出ていた人を強化委員会として重視したいという話も以前出ていた。1年間3本のWRポイントを日本チームで独自計算するという方向なら、選手側でWRが現実的に遠征できると思うか？

→寺垣内：方針をどれくらい先に出せるか？ということになると思う。WRのうち、1年間で3本という方針を1年以上前に選手側に発表できるのであれば、1年間で3本は可能。日本独自の選考として、示すのはありだと思う。個人的な感覚としては、フォレストとスプリントで差がある。全日本スプリントはヨ

ヨーロッパで開かれる大会と同じくらいポイントが伸びる。ランキングのポイントの出やすさが違う。

入江（強化委員）

JRについて、ポイントがはねていると思う。オリエンテーリングの実力を数値化をするのは難しい。環境が異なる中で、客観視する仕組みとして JR はよくできていると思う。納得感・公平感のバランス。多くの人が注目しているので、選考に使っていきたいとは思っている。選考会一発だと向き・不向きが出てくるので、JR 自体に安定した成績を出せる選手が上位にいるという印象がある。

尾上（強化委員）

選考の納得感ということについて。点数では A さんより B さんが上だが、直接対決で B さんの方が上ということがあつた。上位 10 人くらいの直接対決表を作って順位付けすると感覚的に合うと思つた時があつた。数字になっているから客観性があり納得感があるというわけではないと思う。

→尾崎：常に上位にいるということは大事。上位にいる人は速い人ということはある。しかし、尾上さんが言うように感覚的な差異はあることにはある。厳密に気にするよりも、Top10 にいる、というまとまりで見ていった方がいいのではないかと思う。納得感が得られる比べ方はオリエンテーリングにはないと思う。

→菅谷：JR は理解することが難しい数式で出ている。どうやってその点数がはじかれているのかが分からない。そうすると、多くの選手は選手選考で JR を使われると抵抗感が強く納得感が得られにくいのではと思う。

稲葉（強化委員長）

全日本の加点が高すぎると感じている。

→菅谷：全日本の加点というよりは、勝浦（全日本）のテレイン特性に関わると感じている。過去数年を見ると、全日本に選ばれるような難しいテレインは点数が出やすいと思う。

寺嶋（強化委員）

ボーナスポイントについては、世界ランキングでは例えば WOC 決勝では 5%UP、日本ランキングでは全日本で全員 30 点かさ上げという違いがある。自分は WRE みたいに割合でやった方が良いと思うがどうか。

→尾崎：以前西村さん（全日本委員）より、%にするとよりポイントの跳ねが大きくなるケースがあるということを知つたことがある。

→寺嶋：また、ポイントの「はね」についてはクロスカントリースキーのランキングでも発生している。スキーもポイントによって全日本の参加資格に影響するので結構選手は意識(?)しているよう。他の競技団体でも同じ課題は抱えているよう。ご参考まで。

菅谷（アスリート委員）

どこまで頑張っても完璧なランキングを作ることは難しいと思う。

多少のブレは存在するものと割り切って使うという意味で、全日本出場権の足切り程度の使い方なら問題無いという意見に繋がっていると考えている。

稲毛（アスリート委員、事前コメント）

あくまでも全日本エリートを決めるためのランキングなので、日本代表を決める根拠として使うのは違和感がある。

とはいえ、国内でのパフォーマンスを数値化できる良い指標なので、ランキングを利用する時は期間前に対象レースや条件を明示してほしい。また、拮抗している選手同士を比べる 参考情報や、ワールドカップの足切り条件としての活用するのも良いと思う。

→ 全日本委員会側は、日本ランキングは全日本エリートを決めるためのランキングのみの目的で位置付けてはいない。

4 強化方針・将来臨む姿やビジョンについて

アスリート委員より事前に出た意見のポイント

- ・ 代表選手としての活動期間に関して
- ・ 強化方針、ロードマップ

尾崎（アスリート委員）

結果にコミットすることが大事だと思う。現状は選手個人依存になってしまっている。理想としては、強化委員会（JOA）と選手が二人三脚でやっていくことが、高みを目指すために重要だと思う。高みを目指すために闇雲に目指すわけではなく、ロードマップを作ることが大事だと思う。今までたくさんの代表選手がいるので、そういった意見を集約して、世界で戦うにはどういったレベルが必要か等を聞いて、どういったチームとしてのアプローチが必要なのか、求めるのか、ということを集約して共有されていくとチームとして強くなるのでは。

強化方針を出してもらっているものをブラッシュアップが必要。具体的な意見を個々人持っている。現実的なものにしていきたい。日本と世界の現実的な差とそれを埋める必要があるのでは。

WOCのプリントは大前提として、もうちょっと足が速くないといけないと感じている。強化方針で出ている「決勝に複数人」だと走力基準をもう少し上げないといけないと思っている。実践練習というよりトレイン研究等のやり方の知識蓄積も大事だと思う。ナビゲーション能力もちろん、地図理解能力・一回で拾える情報量・正確性で差がついているように感じる。今春、（吉田）勉さんをお願いした。そういった強化も出来るといいのではと感じた。

代表選手の活動期間として、選ばれて～大会に出て、それで終わりになってしまっているところがある。

秋以降、現実的に強化委員会のリソースがないのだとしたら、走力の強化に充てることも出来るし、半年間で得た知見を集約して新しいものにアップデートしていくことも出来ると思う。四半期ごとに合宿をして共有して代表になりたい人を対象としていくということも手なのではと思う。

秋～冬シーズンに WOC に近い選手で 1 回やるのはどうか。対面で会うのは大事だと思う。

→稲葉：強化選手だけで合宿をすると採算的に厳しい。強化選手+強化選手を目指す選手で合宿をやりたいと思っているが、どこまで呼ぶかの線引きは難しいと感じている。2005 年の時に代表選手に近い選手を集めて合宿をしていたと聞いている。

→尾崎：スイスだと強化 C くらいまで選んで、代表選手がその中から選ばれている。WOC の代表を走力で足切りをするなどして、一定以上の選手から選ぶという手もある。世界選手権の決勝に行くためにはこれくらいのタイムが必要だから、足切りのタイムを設定しますということは良いのではないか。フォレストは足切りをするのは難しいが、日本ランキングで何位以内という使い方も出来るかもしれない。

→稲葉：日本の上位 10 数人のメンバーでの合宿を本当はやりたいと思っている。しかし現実的に線引きが難しく、目指す気持ちがある人はぜひ来てくださいとなってしまっている。トップの 5 人くらいはもっとハイレベルの練習をしたいと思っていると思う。強化選手だけの合宿が開けていないことは申し訳ないと思っている。

尾上（強化委員）

どういう練習をするのか、という点について。選手でもいろいろな工夫をしていると思うので、選手で賄える部分・頼りたい部分の切り分けは具体的にあれば教えてほしい。

→尾崎：障害として発生してくるところ（本番の地図を作る作業・読図練習の課題（マンパワーがかかるところ））にお金を投じて楽をすることが出来るのでは。個人コーチだと効率が悪いので、ひとつの読図課題等を共有していくのが良いのではないか。

選手が主体的にやるというより、チームを作っている側が率先してファシリテートしていくべきなのは。情報のハブを強化委員会でチームを統括してやっていけば効率的にできるのではと思う。選手側がやるというよりは、コーチ側がやるイメージ。

理想はヘッドコーチがいた方がいいとは思う。リソース的にその人を雇うお金と誰を探してくるかななどの問題もある。コーチを雇えないのであれば、チームで何とかするのではないかと思う。個々人で持っている知識はあると思うので、それをうまく合わせていくしかないのでは。日本として強くなる現実的な方法なのではないか。

選手は引退してしまう。蓄積されていたものがどこかにいってしまうのはチームとして喪失だと思う。既に多くの経験やノウハウ・知識が無駄になってしまっていると感じる。

→糸：WUOC 代表の永山選手からも JOA 合宿はもう少しメニュー組等を欧州で合宿の経験を積んだ選手に頼る体制にしてもいいのでは、という意見をもらった。

寺垣内（アスリート委員会委員長）

WOC で選考方法・方針の取り組みがどうだったかというレビューをオープンにしてほしい。選手と強化委員会側のそれぞれがどう感じているかをコミュニケーションしていけたらいいのでは。2010 年代は吉田勉さんがヘッドコーチをしていた。1 年前から選手として WOC を目指すことを表明して長期的な取り組

みを促す形になっていた。ヘッドコーチが裁量を持っていて、リレーの選考や走順に関与していた。強化選手+ α を見られるヘッドコーチがいると選考や力のある選手を見つけやすいように思う。体制の在り方も昔のことを振り返りながら思った。

秋～冬で言うと、冬はフィジカル合宿だけ、という年もあった。そういう形もありなのでは。

堀田（アスリート委員）

世界選手権は代表の数も限られている。いざ通ったとしても、代表経験初めての人も多い。Wcup や AsOC で経験を積んでから WOC という流れにすることが大事だと思う。AsOC は門戸を広げて多くの選手が目指せる形にしてもらえると良いのかと思った。

選手同士でやっていることはレベルが上がっている。筑波等。皆がやっていることを共有していければ。

稲毛選手（アスリート委員、事前コメント）

5年前、10年前と比べると、少なくともフォレストでは方針と選手の意識が近くなっていたし、達成不可能な内容では無いと思っている。

理想を語るなら香港のようにオールシーズンチームとして国際大会に参加し、向こうでの合宿も開催できるようにしたいが、地理的資金的観点から現実的ではない。世界で戦えることを具体的に目指す活動が選手個人の決断にかかるのは仕方が無いと思うので、組織としては代表枠の確保や日本での共有の場を作れると良い。

稲葉（強化委員会委員長）

ヘッドコーチ制はあるべき姿だと思う。コーチを育成しないといけないと思う。コーチングに興味を持っている人がいたら強化委員会に紹介してほしい。個人コーチをやる人はいるが、ヘッドコーチを出来る人は難しい。個人コーチで才能がある人でも。

尾上（強化委員）

コーチはいろいろなやり方・考え方がある。オリエンテーリング自体選手がいろいろなことを考えなければならぬスポーツとしての特性がある。選手それぞれに考え方が違う中で、コーチ自身の考え方をブッシュする人・相手を尊重する人とそれぞれいて、合う・合わないが出てきてしまう。海外のコーチのスキル・経験が欧州で培われた結果そういう人材が海外にいるのだと思う。難しい要素が多そうだという直感がある。

さいごに（意見交換会事後コメント）

稲葉（強化委員会委員長）

意見交換会で、様々なご意見があることを改めて認識しました。特に日本ランキングについては、その人のランキングによっても、ランキングの算出方法に対する理解度によっても、意見が異なることが良く分かりました。ランキングの意義や算出方法などに対して、JOA が積極的に理解活動を進める必要があ

るのではないかと稲葉個人的には考えています。全日本委員会と連携しながら進めていきたいと思っています。

アスリート委員会の皆さんには多くの選手の意見を吸い上げていただいていると思っていますが、すべての選手の意見を把握することは困難かと思っていますので、次回の意見交換会ではアスリート委員ではない選手にも参加いただきながら、ご意見をお伺いしたいと思っています。強化選手になっていないランキング一桁の選手の皆さんのご意見を是非お聞きしたいです。

寺垣内（アスリート委員会委員長）

企画頂いた糸早穂さん、ご出席いただいた皆さま、ありがとうございました。

あらためまして、強化委員会の皆さまが選手に寄り添い、様々な思考を巡らせながら、強化活動を推進されていることがわかりました。心より御礼申し上げます。アスリート委員会では下記ミッションを掲げて活動を行っております。

『「フェアプレイ精神」、「アスリートとそれを支える人の相互理解」で成り立つオリエンテーリング競技の発展に寄与する。』活動の中、オリエンテーリング界は多くの方々のボランティア、熱意にて成り立っていると同時に、多くの方々の多様な意見や取組の積み重ねが、この競技の発展につながると感じています。今回の意見交換会のトピックスでは、出席者以外の方々の中には、異なる意見もあろうかと思いません。

より良い意見収集、交換のやり方についても模索していきたいです。お互いが無理をし過ぎることのない範囲で。定期的な振り返り、対話が大切だと感じた意見交換会でした。

糸（企画者、アスリート委員）

JOA ではオンラインでパブリックに意見を集められるような環境を作ってきているので、ぜひ強化委員の皆様には選手からの海外での知見を集めて強化方針に反映できるような取り組みを進めていただきたいと感じました。

一方、アスリート側は、改めて強化委員会・JOA はボランティアで成り立っている組織であり、それを念頭に置いた上で選手自身もチーム作りにどう寄与出来るかを一歩踏み込んで（「言う」ことから始まりますが、理想は「言う」だけでなく「行動」も含めて）一緒に考えていく必要があると改めて感じました。JOA としては選手が引退した後、オリエンテーリングを趣味として楽しみながら、色々な方法で支える立場として関わられるような組織づくりをしていくことが大切なのではないかと思いました。

以上